

2023年3月期第2四半期 決算説明会



2022年10月28日
株式会社トプコン
代表取締役社長 平野 聡



会社紹介
ビデオ

2023年3月期第2四半期 決算説明会

I. 2023年3月期第2四半期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. まとめ

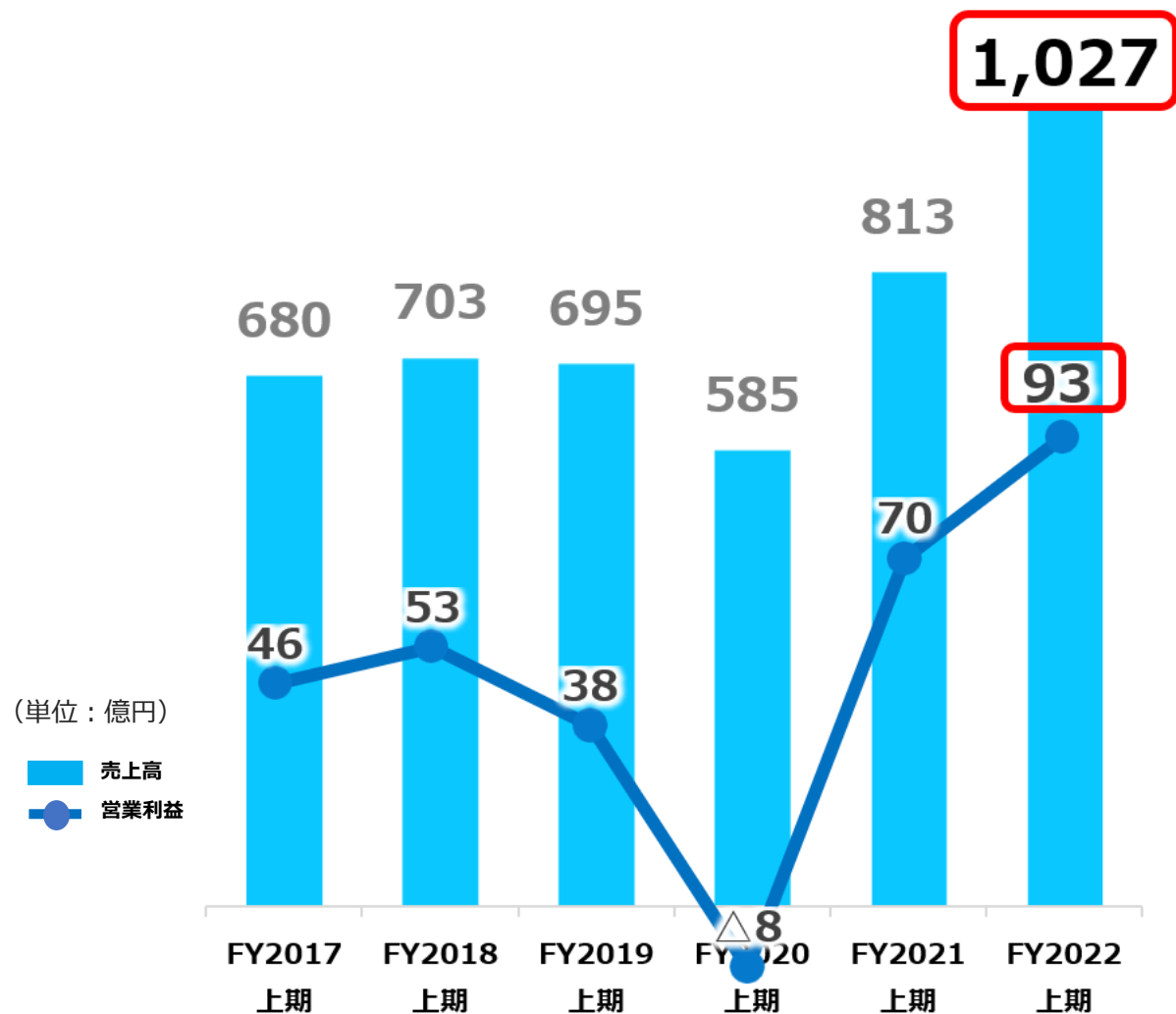
IV. 参考資料

I . 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況

FY2022 上期決算概要



■ 大幅増収増益 売上高・利益 過去最高

- ICT自動化施工・IT農業等の成長事業が販売増に大きく寄与
- スクリーニングビジネス好調
- 部材不足、部材・物流費高騰影響は想定以上

FY2022 上期実績

■ 売上高・利益・配当 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	前年同期比%
売上高	81,251	102,715	21,464	+ 26%
売上総利益 (売上総利益率)	41,583 (51.2%)	53,515 (52.1%)	11,932	
販管費	34,602	44,179	9,576	
営業利益 (営業利益率)	6,980 (8.6%)	9,336 (9.1%)	2,355	+ 34%
営業外損益	△695	92	787	
経常利益	6,285	9,428	3,142	+ 50%
特別損益	495	△426	△921	
税引前利益	6,781	9,002	2,221	
四半期純利益	3,883	6,032	2,148	+ 55%
中間配当	10円	20円	+10円	
為替 換算レート (期中平均)	USD EUR	110.18円 130.97円	133.46円 138.79円	23.28円 7.82円

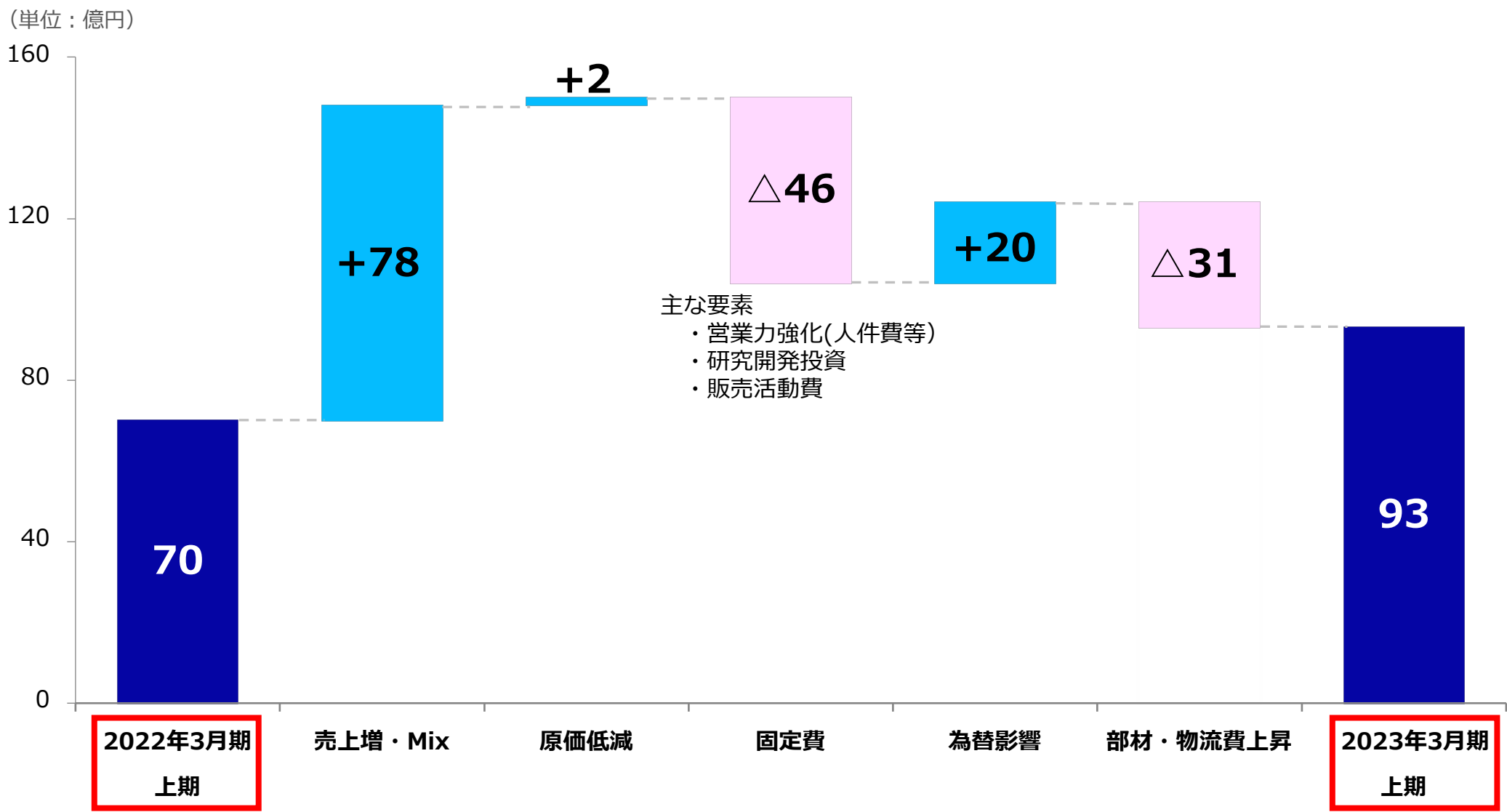
FY2022 上期事業別実績

■ 全事業で増収

(単位：百万円)

		FY2021	FY2022		
		上期実績	上期実績	前年同期比	前年同期比%
売上高	ポジショニング	45,279	59,895	14,615	+32%
	スマートインフラ	18,973	20,773	1,800	+9%
	アイケア	25,252	31,492	6,239	+25%
	その他	600	588	△12	
	消去	△8,854	△10,033	△1,179	
	合計	81,251	102,715	21,464	+26%
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	5,442 (12.0%)	7,590 (12.7%)	2,148	+40%
	スマートインフラ	3,242 (17.1%)	2,652 (12.8%)	△589	△18%
	アイケア	515 (2.0%)	1,487 (4.7%)	972	+189%
	その他	△162	△204	△42	
	調整	△2,057	△2,190	△133	
	合計	6,980 (8.6%)	9,336 (9.1%)	2,355	+34%

FY2022 上期増減益分析（営業利益ベース:前年同期比）



I . 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況

売上高・利益 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	%
売上高	45,279	59,895	14,615	+32%
営業利益 (営業利益率)	5,442 (12.0%)	7,590 (12.7%)	2,148	+40%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.18 円	133.46 円	23.28 円	
	EUR 130.97 円	138.79 円	7.82 円	

業績要因分析

全般

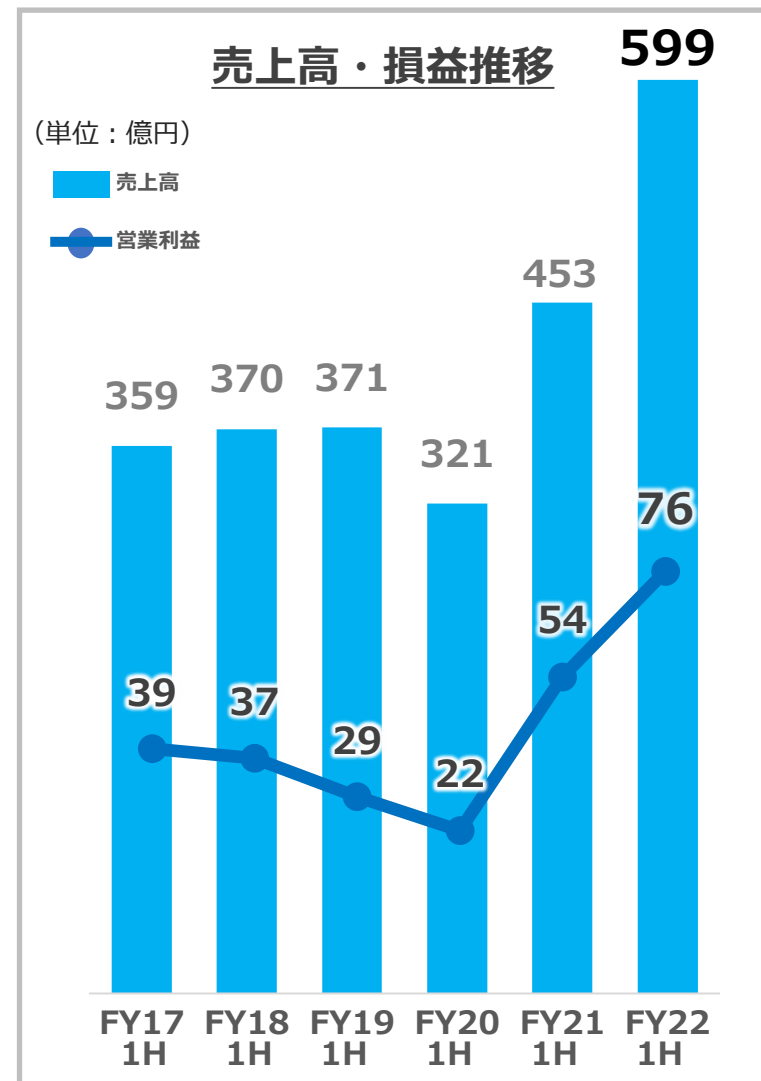
- 部材不足の影響も、北米中心に好調な需要を取込み大幅増収増益
- 部材・物流費高騰の影響顕在化

ICT自動化施工・IT農業

- アフターマーケット・OEM共に販売好調継続

測量機・レーザー機器

- 底堅い需要継続も、部材不足影響で販売鈍化



売上高 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	%
売上高	18,973	20,773	1,800	+9%
営業利益 (営業利益率)	3,242 (17.1%)	2,652 (12.8%)	△589	△18%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.18 円	133.46 円	23.28 円	
	EUR 130.97 円	138.79 円	7.82 円	

業績要因分析

全般

- 国内向け販売好調、アジア・中東は販売回復継続
- 部材不足に伴う測量機生産減の影響継続

国内ICT自動化施工・IT農業

- 杭ナビシヨベル・農機オートステアリングシステムの販売好調

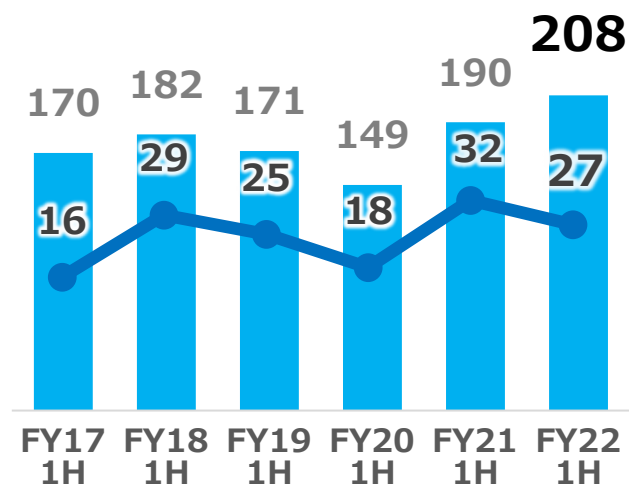
成長投資

- 建築DX、アジア市場開拓の先行投資は順調に進捗

売上高・損益推移

(単位：億円)

■ 売上高
● 営業利益



売上高 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	%
売上高	25,252	31,492	6,239	+25%
営業利益 (営業利益率)	515 (2.0%)	1,487 (4.7%)	972	+189%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.18 円	133.46 円	23.28 円	
	EUR 130.97 円	138.79 円	7.82 円	

業績要因分析

全般

- 部材不足による影響も、欧米向け好調な販売により大幅増収増益
- 中国はゼロコロナ政策影響で販売鈍化
- 部材・物流費高騰の影響顕在化

スクリーニングビジネス

- Maestro/NW400を中心に好調な販売継続

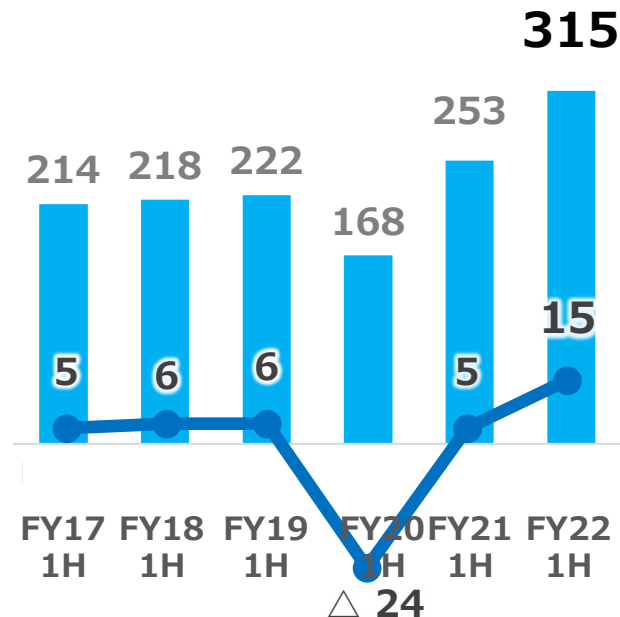
デジタル検眼システム

- 欧米大手眼鏡チェーン向け販売好調

売上高・損益推移

(単位：億円)

売上高
営業利益



Ⅱ. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-2. 事業別トピックス

■ 上方修正 売上高 2,000億円

マクロ環境の見通し

- 世界的なインフレ高進と金融引締めによる景気後退リスク
- ロシア・ウクライナ戦争等の地政学リスクの高まり
- 部材不足及び価格高騰の影響継続
- 中国ゼロコロナ政策による影響の長期化

上記の通りマクロ環境の不透明感が一層高まる一方で、成長事業の堅確な需要および下期の為替前提の変更を鑑み、以下の通り業績見通しを見直す

新公表値

	旧公表値 (7/26)	新公表値 (10/28)	旧公表値比	前年度 (FY2021)	前年度比
売上高	1,900億円	2,000億円	+5%	1,764億円	+13%
営業利益	180億円	190億円	+6%	159億円	+19%
経常利益	170億円	180億円	+6%	148億円	+21%
純利益	120億円	125億円	+4%	107億円	+17%
配当	40円	42円	+2円	36円	+6円

下期為替前提：\$=130円/€=135円

©2022 Topcon Corporation

FY2022 通期見通し

(単位：百万円)

	FY2021		FY2022			
	上期 実績	通期 実績	上期 実績	通期 見通し	前年度比 (%)	2022年 7月26日 公表値
売上高	81,251	176,421	102,715	200,000	+13%	190,000
営業利益 (営業利益率)	6,980 (8.6%)	15,914 (9.0%)	9,336 (9.1%)	19,000 (9.5%)	+19%	18,000 (9.5%)
経常利益	6,285	14,820	9,428	18,000	+21%	17,000
純利益	3,883	10,699	6,032	12,500	+17%	12,000
R O E		14.0%		14%		14%
配当	10円	36円	20円	42円	+6円	40円
為替換算レート (期中平均)	U S D	110.18円	112.86円	133.46円	(下期前提 レート)	120円
	E U R	130.97円	131.01円	138.79円		130円

FY2022 通期見通し (事業別)

(単位：百万円)

		FY2021		FY2022			
		上期 実績	通期 実績	上期 実績	通期 見通し	前年度比 (%)	2022年 7月26日 公表値
売上高	ポジショニング	45,279	96,692	59,895	113,000	+17%	106,000
	スマートインフラ	18,973	39,040	20,773	43,000	+10%	42,000
	アイケア	25,252	57,352	31,492	65,000	+13%	62,000
	その他	600	1,184	588	1,000		1,000
	消去	△8,854	△17,848	△10,033	△22,000		△21,000
	合計	81,251	176,421	102,715	200,000	+13%	190,000
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	5,442 (12.0%)	11,548 (11.9%)	7,590 (12.7%)	13,500 (11.9%)	+17%	13,000 (12.3%)
	スマートインフラ	3,242 (17.1%)	5,821 (14.9%)	2,652 (12.8%)	5,500 (12.8%)	△6%	5,000 (11.9%)
	アイケア	515 (2.0%)	3,203 (5.6%)	1,487 (4.7%)	5,000 (7.7%)	+56%	4,500 (7.3%)
	その他	△162	△365	△204	△400		△300
	調整	△2,057	△4,293	△2,190	△4,600		△4,200
	合計	6,980 (8.6%)	15,914 (9.0%)	9,336 (9.1%)	19,000 (9.5%)	+19%	18,000 (9.5%)

Ⅱ. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 2023年3月期 通期見通し

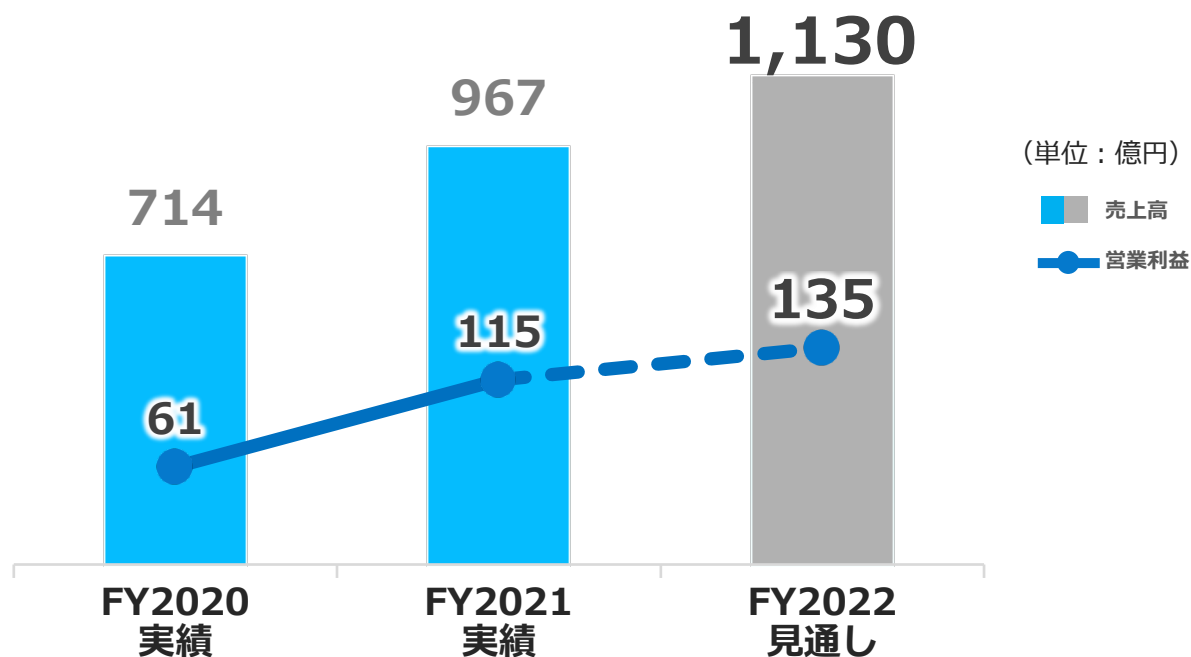
Ⅱ-2. 事業別トピックス

事業環境

- 金融引締めによる米国住宅建設減速の一方で、インフラ関連工事は増加傾向
- 欧米における建設／農業分野での人材不足による省力化ニーズの高まり

注力事項

- 米国インフラ投資の積極的な取込み
- 世界最大の建機展「BAUMA2022」再開



■増加するインフラ関連工事需要を捉える

米国インフラ投資雇用法

(2021年11月成立)

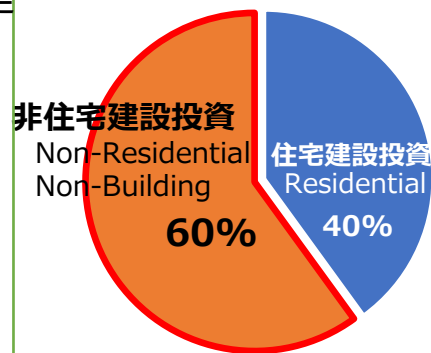
- ✓ 予算規模：総額1.2兆ドル超
- ✓ 8年間にわたり公共工事の増加に期待

主な投資分野

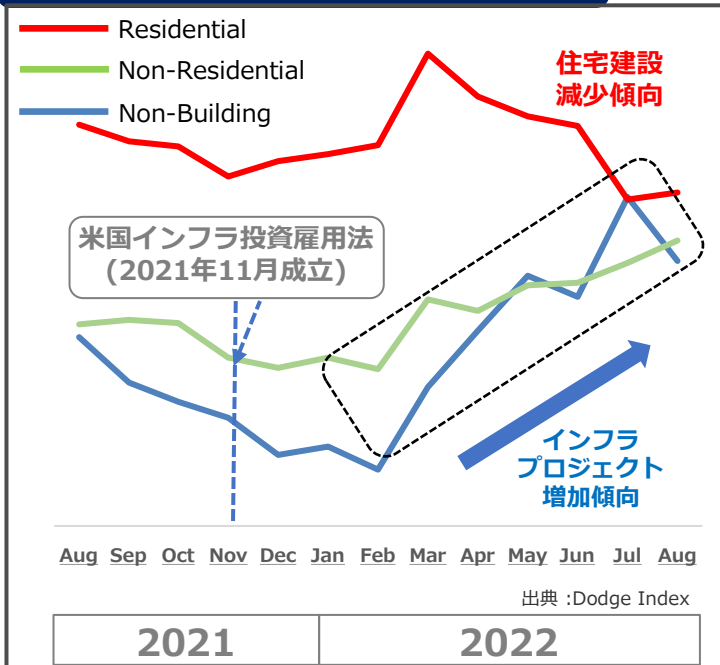
- ・道路・橋梁の修復再建
- ・鉄道の近代化
- ・公共交通の拡充
- ・空港・港湾整備

出 <https://www.congress.gov/bill/117th-congress/house-bill/3684/text>
典

米国建設投資の内訳



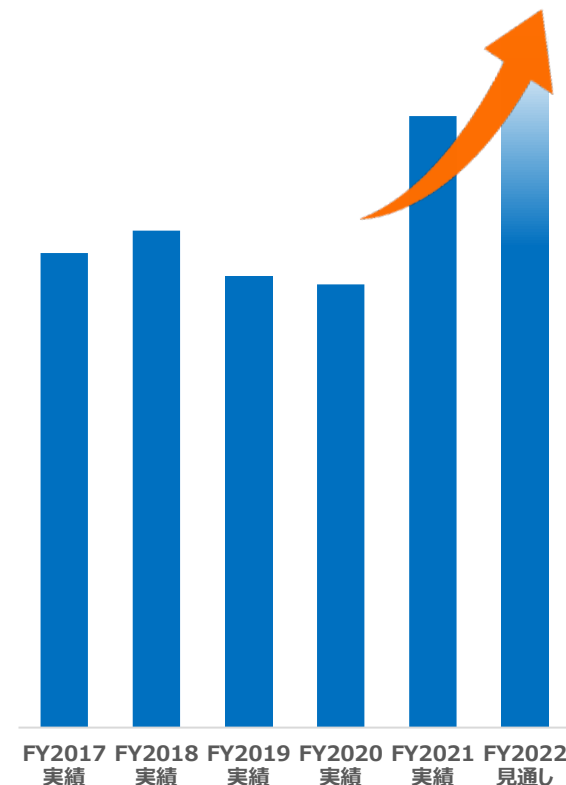
米国建設プロジェクト推移



ICT自動化施工

(金額)

売上推移



各プロジェクト事例



世界最大の建機展「BAUMA2022」再開

ポジショニング

■ コロナ禍で延期となっていた3年に一度の世界最大の建機展開催

欧州建機展「BAUMA」

開催地 : ドイツ、ミュンヘン
日程 : 2022年10月24日～30日
参加者(見込) : 60万人以上 (前回実績62万人)
出展社数 : 58ヶ国から3,000社以上



当社ブース(屋内展示ホール)



屋外展示場

成長期待分野で当社独自ソリューションを展示

再舗装工場化ソリューション



当社エコシステムで補修サイクル構築

中小型ICT建機用MC Mobile



ICT建機の裾野を拡大

建築DX



DXで新規マーケットを創出

- ✓ 多数の来場者で会場は活況
- ✓ 大量受注、引き合いは前回を上回る



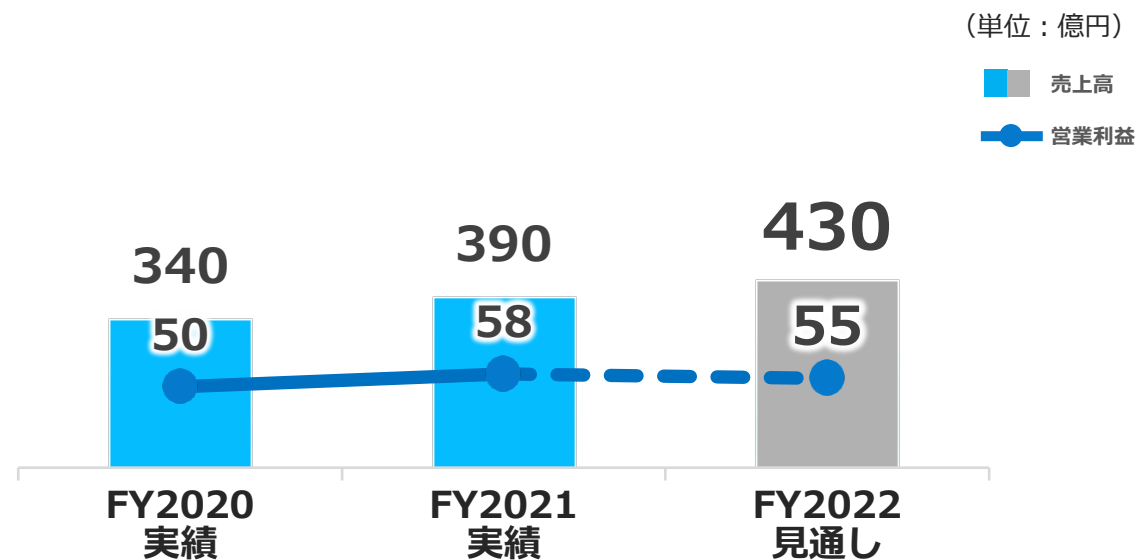
世界的なインフレ局面
においても
建設市場の勢いを確信

事業環境

- 国内建設・農業分野の堅調な需要継続、担い手不足による自動化ニーズの高まり
- アジア : コロナ禍からの復興需要が本格化

注力事項

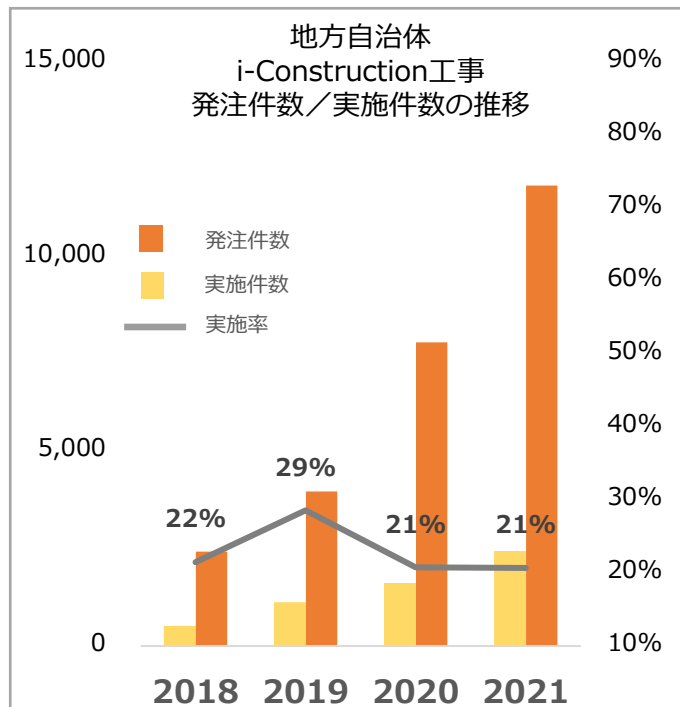
- 『杭ナビショベル』で国内ICT自動化施工の普及加速
- 国内IT農業：中小型IT農機市場の開拓を牽引



■ 地方で広まるi-Constructionへの取組みを後押し

i-Construction実施状況と課題

- ✓ i-Construction開始後6年で、地方自治体発注の小規模工事でも発注件数が急増
- ✓ 但し、実施率の伸び悩みが課題



(出典：国土交通省)

小規模現場へのICT建機普及の取組み

■ ICT建機が普及しづらい要因

- ✓ 大規模現場用 (大型建機向け) がメイン
- ✓ セットアップの専門知識が必要
- ✓ GNSS (GPS) の専門知識が必要

■ 杭ナビショベルの投入！

導入のハードルを下げる 杭ナビショベルの特徴

- ✓ 小規模現場に適した (小型建機向け) 廉価版システム
- ✓ セットアップが容易
- ✓ 現場に広く普及している「杭ナビ」をセンサーに活用
GNSS (GPS) の専門知識が不要



「杭ナビショベル」販売推移 (台数)



■ 簡易型オートステアリングシステム市場投入で大幅販売伸長

当社IT農業システムラインナップ

大型トラクター向け オートステアリングシステム



- <特徴>
- ✓大型トラクター向け
 - ✓大規模農場での利用
 - ✓フル機能搭載

中小型トラクター向け オートステアリングシステム 2021年11月発売



- <特徴>
- ✓中小型トラクター向け
廉価版システム
 - ✓中小規模農場での利用
 - ✓機能限定
(オートステアリングのみ)

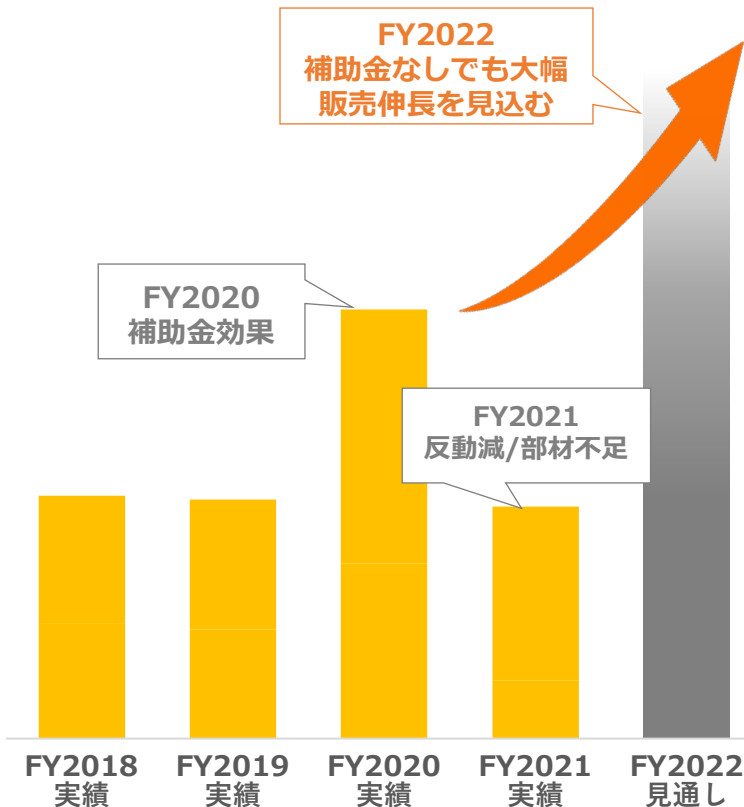
ここを
ターゲット

トラクター 市場規模イメージ（台数）

従来ターゲット市場
大型農機
(主に北海道)

未開拓市場
中小型農機
(北海道以外)

当社オートステアリングシステム 販売推移（台数）

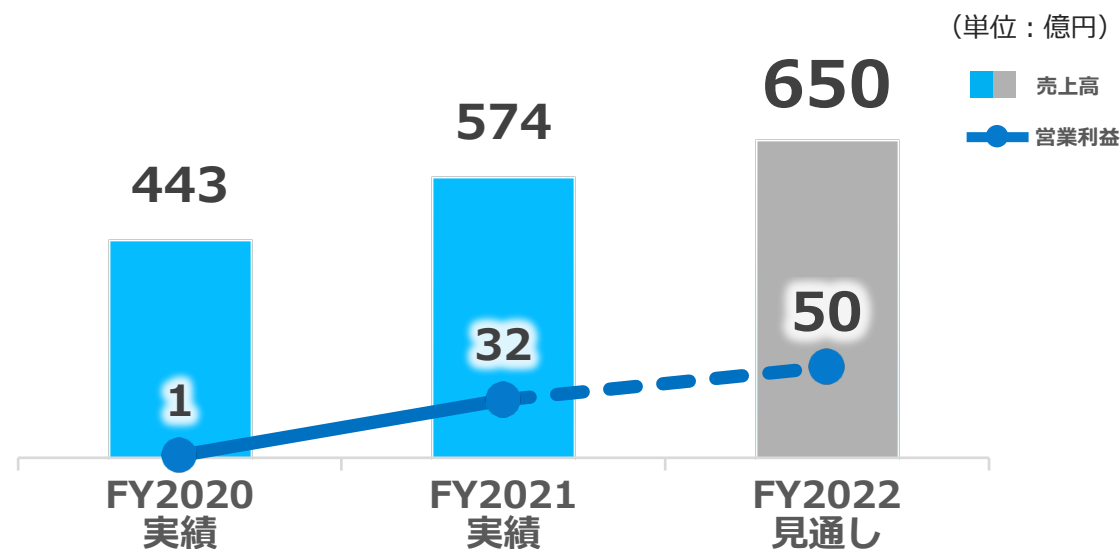


事業環境

- 欧米大手眼鏡チェーン店の堅調な設備投資が継続、特にスクリーニングに注力
- 世界的な高齢化や糖尿病増加による慢性眼疾患の継続的な増加

注力事項

- 戦略的新製品投入でスクリーニングビジネスを推進
- 世界最大の米国眼科学会AAO2022開催



■ スクリーニングに適した機能を強化したフルオート眼底カメラ NW500発売

※1



瞳孔が小さくても撮影可能！

※2

撮影可能最小瞳孔径

瞳孔径イメージ図

当社従来機 3.3mm



新製品 **2.0mm**

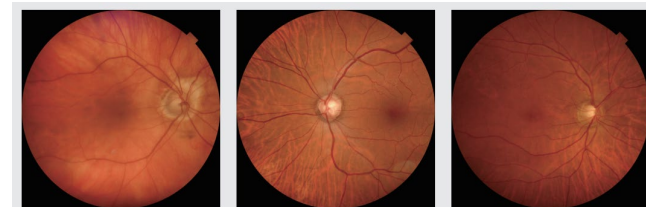
※2



撮り直しが少なく、高画質眼底画像を撮影可能！

優れた画質、フレアや影の低減効果により、
撮影の成功率向上

高画質な眼底画像



白内障
(瞳孔径:2.0mm)

緑内障
(瞳孔径:3.0mm)

糖尿病網膜症
(瞳孔径:3.0mm)

※3

※4

眼鏡店やドラッグストア等の様々な場所で撮影可能

部屋の明暗設定環境に左右されにくく、明るい部屋でも撮影可能！

※5

※6



※1 販売名「無散瞳眼底カメラ NW500」 認証番号「304AABZX00008000」

※2 最小瞳孔径2.0mmの撮影が可能であることを、模型眼で検証済

※3 画像提供: Michael H. Chen, OD

※4 日本においては医師不在の眼鏡店・ドラッグストア等は対象外

※5 623luxで検証済

※6 Pre-testレーム等の623lux以下の環境下で撮影が可能

世界最大の米国眼科学会 AAO 2022開催

アイケア

■ コロナ禍後、3年振りの本格的な実地開催

米国眼科学会(AAO)

開催地：米国シカゴ

日程：2022年9月30日～10月3日



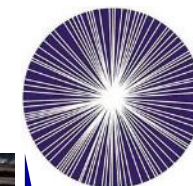
会場の様子



非常に活況な当社ブース



学会の様子



AMERICAN ACADEMY™
OF OPHTHALMOLOGY

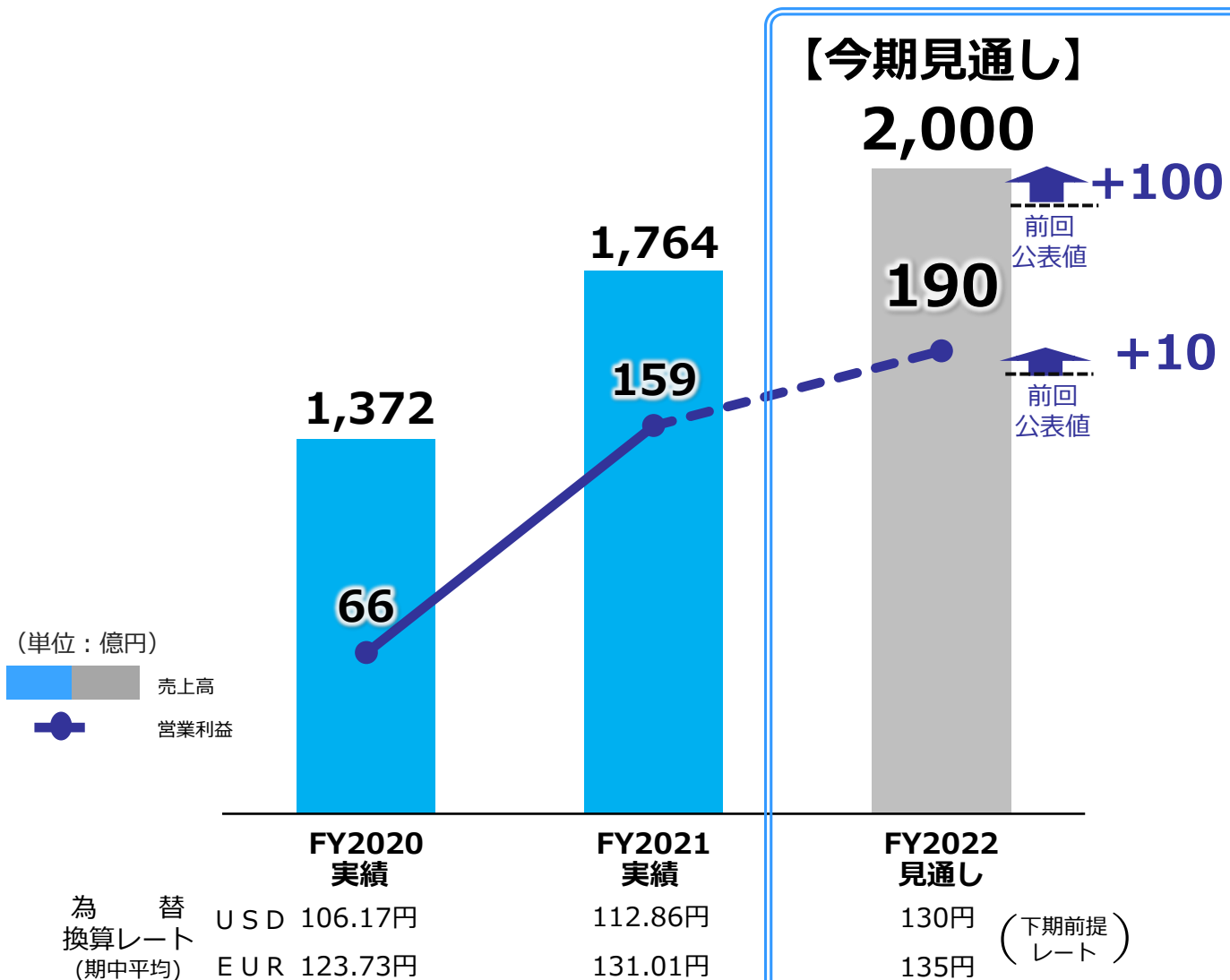
参加者大幅増加
15,000人
(昨年9,000人)

対前年受注額
130%

Ⅲ. ま と め

まとめ

■ 上方修正 売上高・利益 過去最高



増収・増益・増配

	見通し	前年度比
売上高	2,000億円	+13%
営業利益	190億円	+19%
経常利益	180億円	+21%
純利益	125億円	+17%
配当	42円	+6円

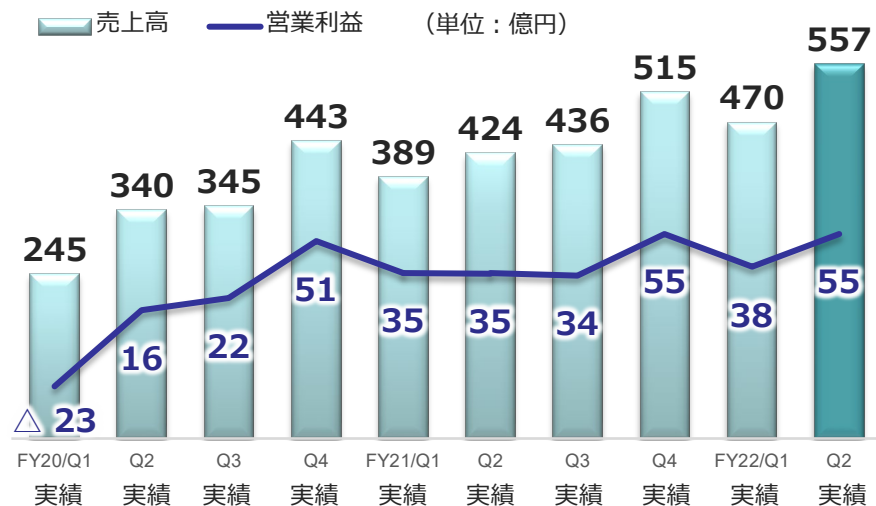
Topcon for Human Life



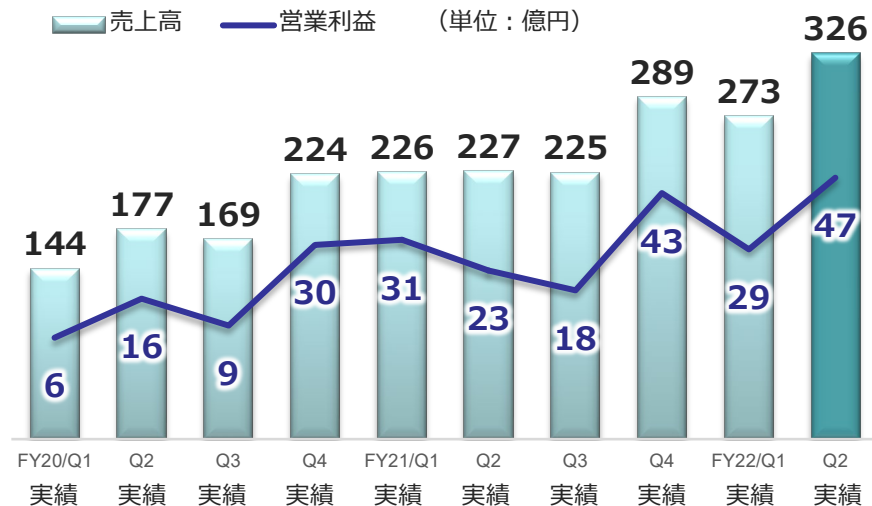
IV. 参考資料

四半期別業績推移

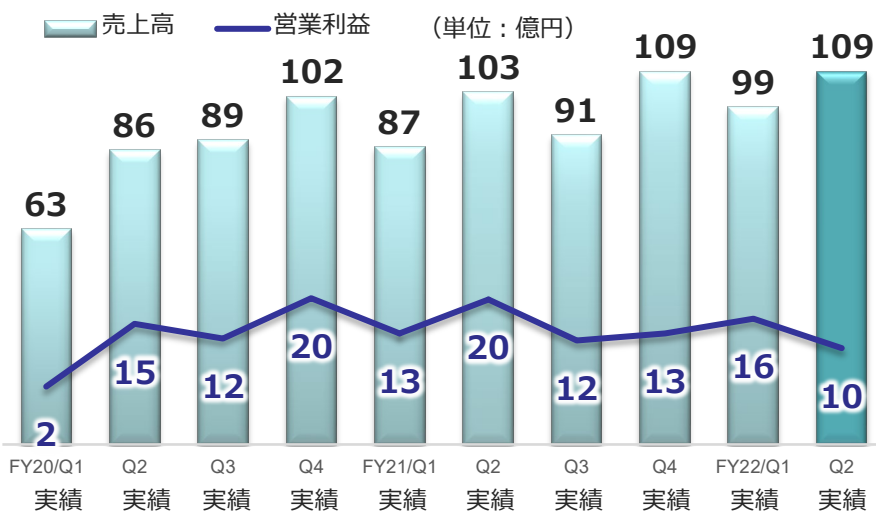
■ 全社



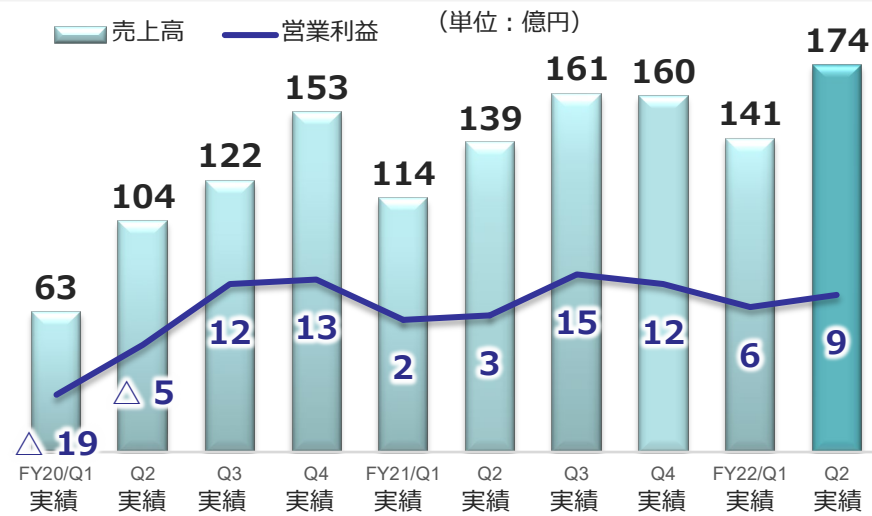
■ ポジショニング・カンパニー



■ スマートインフラ・ビジネス

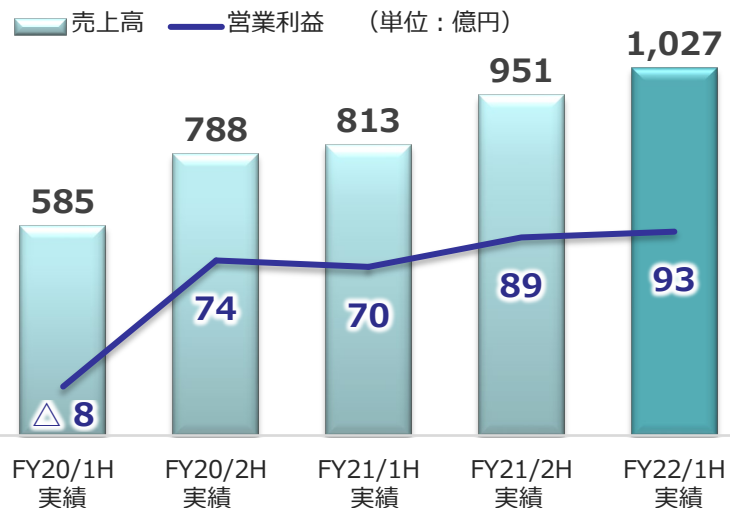


■ アイケア・ビジネス

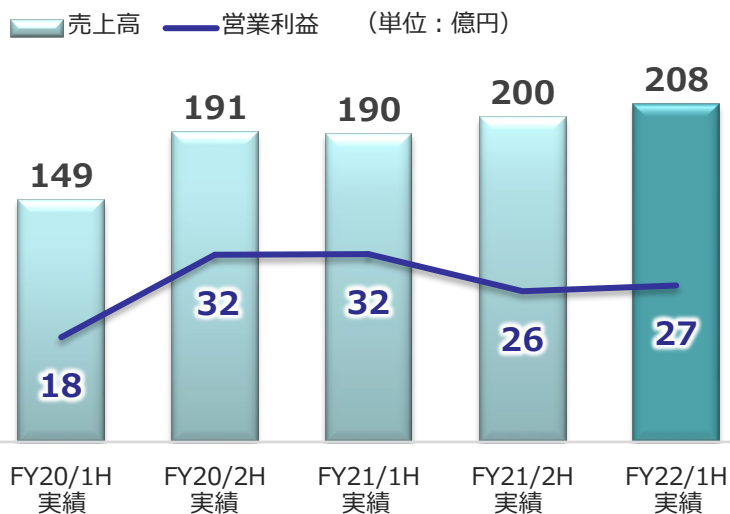


半期別業績推移

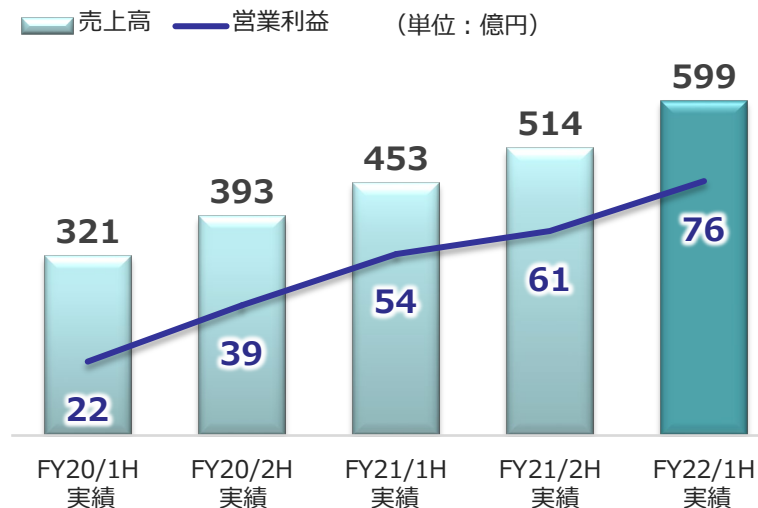
■ 全社



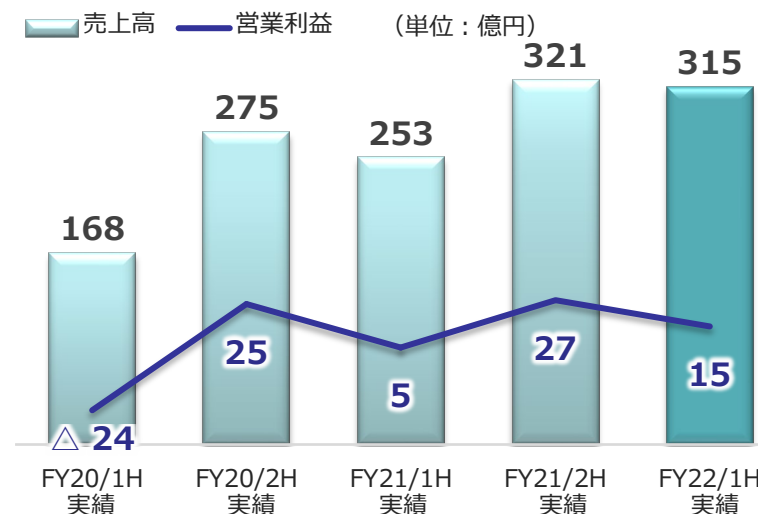
■ スマートインフラ・ビジネス



■ ポジショニング・カンパニー

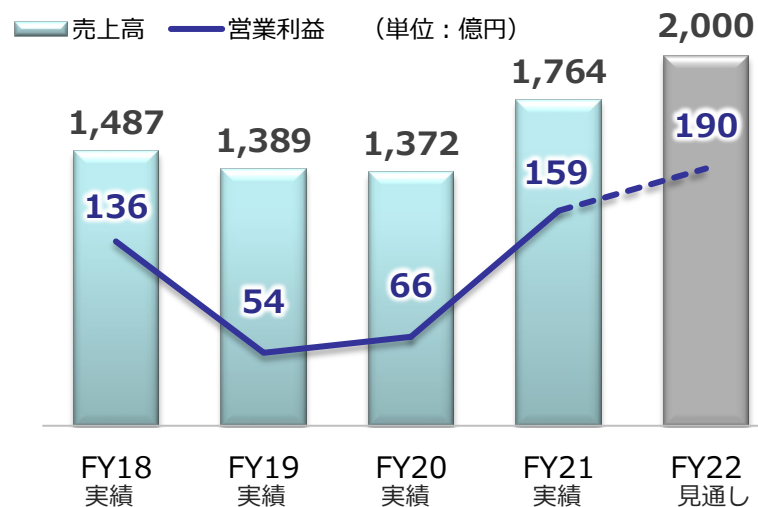


■ アイケア・ビジネス

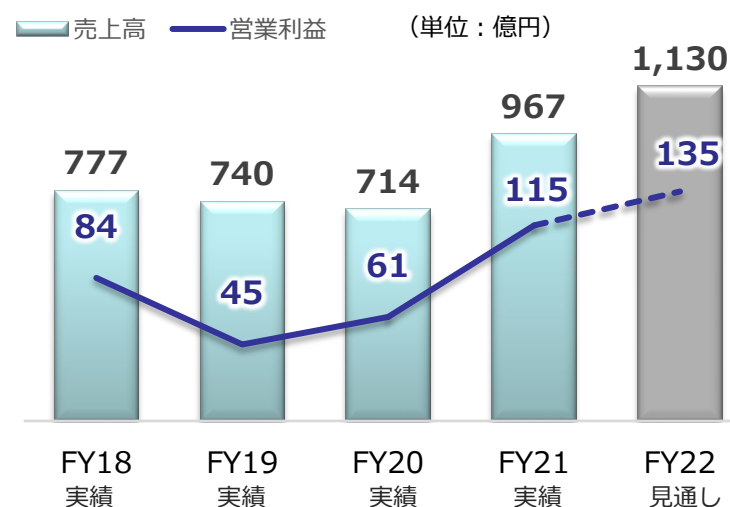


年間別業績推移・見通し

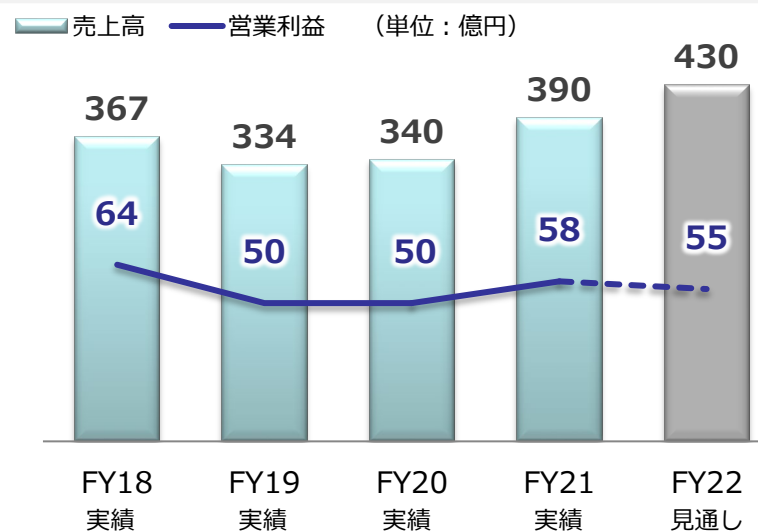
■ 全社



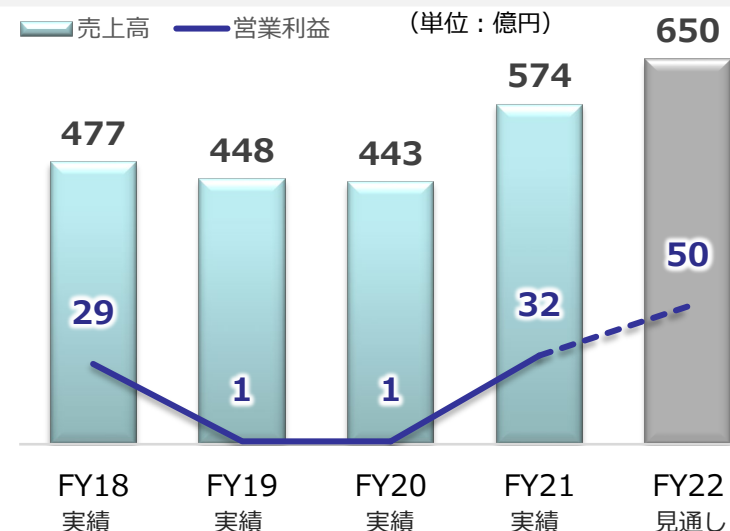
■ ポジショニング・カンパニー



■ スマートインフラ・ビジネス



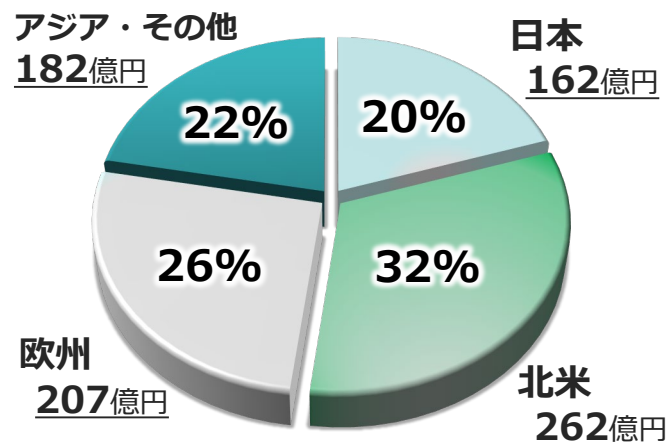
■ アイケア・ビジネス



地域別売上高

FY2021/上期

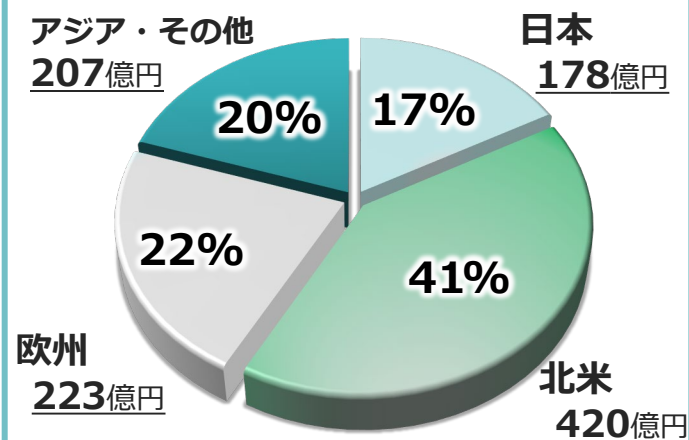
813億円



前年同期比
+26%

FY2022/上期

1,027億円

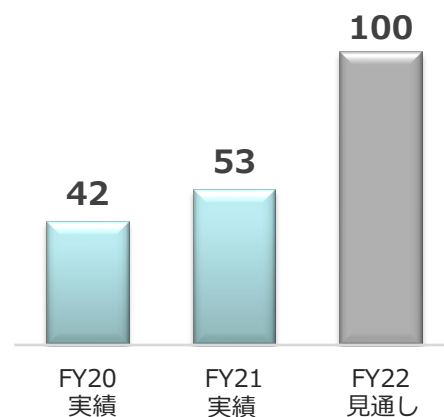


設備投資および研究開発費 / 為替感応度

■ 投資額・費用見通し

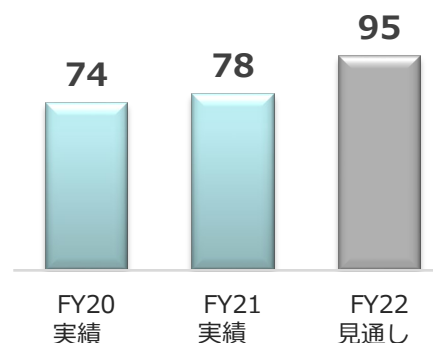
設備投資額

(単位：億円)



減価償却費*

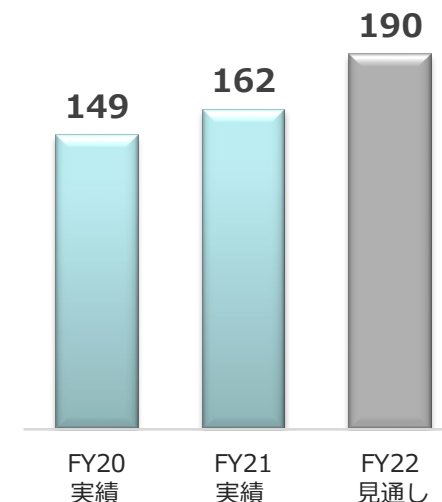
(単位：億円)



*のれん償却費を除く

研究開発費

(単位：億円)



■ 為替感応度（1円の変動による影響額）

USD：営業利益 1.5～2億円

EUR：営業利益 0.7～1億円

Topcon Report 2022（統合報告書）発行

■ 非財務情報コンテンツを更に充実化させた統合報告書を8月に発行



■ ホームページ：<https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/>

価値創造プロセス



代表取締役社長CEO 平野 聡

- トプコン挑戦の歴史と未来
- ベンチャー魂
- サステナビリティへの取り組み

コンテンツ

- トップメッセージ
- トプコンの価値創造
- 事業別戦略

- サステナビリティ
- ガバナンス
- 財務ハイライト

グローバルな視点を持つ
元経営者から見た
トプコンの経営と未来

社外取締役 松本 和幸
(前ナブテスコ株式会社取締役会長)

- 議論活発なガバナンス
- ビジネス自体がSDGs



SDGsへの取組み：CO2排出量削減への貢献

■ 建機・農機の自動化システムそのものが環境負荷低減に貢献



※1：出典-国土交通省i-Construction
推進コンソーシアム
「i-Constructionの進捗状況」(2019)
https://www.mlit.go.jp/tec/i-construction/pdf/03.5_kikaku_siryo_u6.pdf

※2：算定根拠
建機1台あたりの年間CO2排出量推定値に、ICT施工の活用による作業時間想定削減率を乗じた建機1台あたりのCO2排出削減量をもとに、ICT自動化施工機器の全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

※ i-Constructionは、国土交通省国土技術政策総合研究所の登録商標です。

**ベンダーニュートラルの強みにより
既存の各社建機・農機を後付けで自動化**

**自動化の普及拡大で
更なるCO2削減が期待**

※3：出典-AEM 「The Environmental Benefits of Precision Agriculture in the United States」(2020)
<https://newsroom.aem.org/asset/977839/environmentalbenefitsofprecisionagriculture-2#.YBdQZR2Lc74.link>

※4：算定根拠
農業用トラクター1台あたりの年間CO2排出量推定値に、オートステアリングシステムの活用による燃料消費想定削減率を乗じた農機1台あたりのCO2排出削減量をもとに、オートステアリングシステムによる自動操舵トラクターの全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

非財務情報について

■ サステナビリティ関連の外部評価

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、業種毎に同スコアの高い企業を選別するインデックスへ採用



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/10361/>



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスへ採用



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/9527/>



第3回日経SDGs経営調査

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」への取り組みを格付けする調査において2年連続3つ星半を獲得



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/news/2573/>

非財務情報について

■コーポレートホームページ上の当社が取り組む社会課題、SDGs等を説明したサステナビリティページ

The screenshot shows the top section of the TOPCON website's sustainability page. At the top is a navigation bar with links: 企業情報, 製品情報, 投資家情報, サステナビリティ, 採用情報, ニュース, トピックス, お問い合わせ. Below this is a large banner with the text "サステナビリティ" and "Topcon for Human Life". A sub-header reads: 「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します. To the right of the text is a grid of 17 Sustainable Development Goals (SDGs) icons. Below the banner, there is a section titled "トプコンとSDGs" with the sub-header "TOPCON & SDGs". This section features the TOPCON logo and the SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS logo, connected by a large 'X' symbol. At the bottom of this section are two buttons: "SDGsへの取り組み" and "国連グローバルコンパクト".

This section displays the main content of the sustainability page. At the top right, it says "TOPCONの取り組み". Below this is a grid of three columns representing the three pillars of sustainability: 環境 (ENVIRONMENT), 社会 (SOCIAL), and ガバナンス (GOVERNANCE). Each column lists various initiatives and policies. For example, under Environment, it lists "環境基本方針", "環境ビジョン2030", and "環境マネジメントシステム ISO14001への取り組み". Under Social, it lists "ステークホルダーとの関係", "人権", "ダイバーシティ", and "社員との関係". Under Governance, it lists "ガバナンスに対する取り組み", "社外取締役", "トプコングループ行動基準", and "CSR基本方針". To the left of this grid is a sidebar menu titled "サステナビリティ" with links to "トプコンとSDGs", "環境に対する取り組み", "社会に対する取り組み", "ガバナンスに対する取り組み", "社会貢献活動", and "トピックス・ニュース". Below the grid, there is a section titled "サステナビリティ" with a sub-header "トプコンは「医（ヘルスケア）・食（農業）・住（インフラストラクチャー）」分野を事業領域としています。これらは世界中の人たちの生活に必須な分野です。". This section includes three images: a family (labeled "医"), a group of people (labeled "食"), and a person (labeled "住").



■「尖ったDXで、世界を丸く。」が第71回 日経広告賞

THE 71st 2022
NIKKEI ADVERTISING AWARDS
日経広告賞

日経メディア・ストラテジー特別賞 受賞！

独創性や新規性、広告展開の工夫などを基準に各審査委員会で選考された60点が受賞



日経電子版広告記事はトプコン
ホームページでご覧いただけます

2022年3月29日より、創立記念日の9月1日まで計6回 日本経済新聞に広告を掲載、日経電子版ともタイアップし当社をPR



日本経済新聞広告



日本経済新聞電子版広告

*日本経済新聞2022/3/29, 6/22, 7/12, 7/27, 8/16, 9/1(広告掲載)+電子版(①歴史編、②事業編、③社長メッセージ編)タイアップ



当資料取扱上のご注意

本資料に記載の業績見通し、並びに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、見通しのもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。
実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、本資料の業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おき頂きたくお願い致します。

お問い合わせ先

株式会社トプコン 広報・IR室

TEL : 03-3558-2532

E-mail: investor_info@topcon.co.jp

URL : <https://www.topcon.co.jp>